



オーバーコールのレスポンスの謎 (その 1)

2018.3.16

オーバーコールのレスポンスには謎があります。オープンだとそのレスポンスは、どんなシステムを使っているか、どうすべきかはほぼ自動的に決まってくるが、オーバーコールの場合はそうではありません。フィットすれば別ですが、しないときに必ずレスポンスしなければいけないということはありませんよね。いろいろ教科書によっても (時代によってもと言った方がよいかも知れませんが) どうレスポンスするか違っているようです。

気になっている事をいろいろ調べてみました。謎を解くことに役立つよう少し教科書や参考書を見てみましょう:

連盟あるいはブリッジ教師会が出している教科書には

- 1. 基礎ブリッジ
- 2. 5枚メジャー基礎コース
- 3. 5枚メジャー中級コース

の3つがあります。

- 1. 基礎ブリッジの p.61 ~ p.62 では

(1H) - 1S - (P) - 2D

となったときの2Dと言う例に

- ♠ -
- ♥ 93
- ♦ QJ109532
- ♣ 632

のような弱いハンドを示す=だからパスしなさいとなっています。この前後に書かれている解説には

『オーバーコールに対して新しいマイナー・スーツをビッドするのは弱いハンドで、そのスーツしか取り柄が無いことを示します。したがって、オーバーコールをした人は原則としてパスします。但し、メジャースーツのビッドは少し積極的です。人により使い方が違うので打ち合わせを要します。』

- 2. には p.111 にオーバーコールのレスポンスの **スーツ・テークアウト** の項があり、「1ラウンド・フォーシング」と書いてあります。いくつか例示があり

(1C) - 1S - P - 2H

- ♠ K7 左の様なハンドで言う、となっています。さらに
- ♥ AJ975 「オーバーコーラーはサポートがあればレイズします。サポートがないミニマムハンドは最初のスーツをリビッドするか、最初のスーツより低いレベルのニュースーツをビッドします。
- ♦ QJ84 最初のスーツより高いレベルのニュースーツをビッドするのはマキシマムハンドを示します」
- ♣ 43

- 3. ではオーバーコールのレスポンスについては解説がありません。

海外の本、たとえば

- 4. The Complete Book on Overcalls by Mike Lawrence, 1980

では p.52 以降、パートナーがオーバーコールした時、ニュースーツをビッドすることについて相当詳細に論じています。

「自分の考え方では、ニュースーツを答えることはフォーシング……

ナイザーバルで

(1C) - 1H - (P) - 1S

- ♠ K10876 左のようなハンドで言う、としています。
- ♥ 42
- ♦ AK87
- ♣ 107

- 5. Commonsense Bidding by Willam S. Root, 1986

の p.102 に Responding in Your Own Suit の項があり

「パートナーのオーバーコールに答えるとしたら、9-13 点でノンフォーシングだがコンストラクティブである。1レベルなら5枚、2レベルなら非常に良い5枚か6枚、3レベルは非常に良い6枚スタートである。

たとえば

(1C) - 1D - (P) - 1H

9点で良い5枚ハートがあるのでダイヤモンドを

レイズするより自分のスタートを言った方がよい。

しかしメジャースーツだったら3枚サポートがあ

る時は自分のスタートを言うよりレイズした方がよい。このハンドだと、パートナーのオーバーコールが1Sだったら2Hと言わずに2Sの方が良い。

(1S) - 2C - (P) - 2H

13点でビッドはノンフォーシングだから、自分の

スタートをビッドすべきところである。バルの時、

パートナーからはもっとよいハンドを期待される

かも知れないが、バルネラビリティに関係なく2Hを勧める」

となっています。なおこの著者によると、両方のハンドの点数は、絵札点に加えてレンジポイントも加えた数値を使っています。

(次回に続く)